

今回の東大見学会で私が特に印象に残っているのは新日鐵の訪問です。全国の社員のほとんどが入ることのない本社の内部を見られただけでなく、会議室を借りて話を聞くことができ、充実した時間を過ごせたと思います。二高のOBの方々が、自分が会社でどのような役職で、どのような仕事をしているのかを詳細に教えてくださいました。また、彼らの高校時代の生活などを知って、今の自分の生活との相違点などを探したりもしました。そのあと、会社に関する説明がありましたが、新日鐵が粗鉄の生産量が世界で中国の企業に次いで第二位であり、日本国内では第一位であることを聞いて、新日鐵の凄さを知り、この本社の訪問は非常に貴重な体験であることを改めて実感させられました。新日鐵のプロモーションビデオも、しっかり会社の要素を入れつつ固い雰囲気にならない編集がされていて、細かいところまで配慮していることに感心しました。会社の紹介や説明のあとに設けられた社員との話し合いでは、私たちが投げかける質問に対して社員が的確に歯切れ良く答えていて、彼らが優秀な人たちであることを肌で感じさせられました。会社を出るとき、もう少しここにいたいと未練を感じました。

次に印象に残っているのは東大のオープンキャンパスです。私の第一志望は東大の理1なので、この機会に東大の雰囲気少しでも感じたいと思っていました。初めて見る赤門の迫力に少々圧倒されました。見学する理学部の建物に行く途中に学生運動の象徴でもある安田講堂がありましたが、外面だけを見て理学部に急ぎました。建物に入ったときに渡された紙には大学の模擬講義の案内が書かれてあったので、早速講義のある部屋に行きました。私がまず選んだ講義は重力波に関する話でした。講義で教授はパワーポイントを使っていたので、中学生や高校生でも分かりやすくなっていました。次に選んだ講義は粒子と反粒子に関する話でした。私は素粒子物理学に興味を持っていたのでこの講義に決めました。話の途中で教授は異星人に「右」を説明する方法を教えてくださいましたが、この方法では異星人が反物質で出来ていた場合は無理だともおっしゃっていました。その後、食堂で食べようとしたのですが、混んでいて講義に間に合わないようだったので予定を変更してサブウェイで食べました。最後の講義は天体の衝突と合体に関する話でした。私が気になっていた中性子星の説明もあって興味深い内容となっていました。最後に時間が余ったので質問することができました。

企業大学訪問もまた印象深いものでした。私たちの班は陽子崩壊を観測するハイパーカミオカンデについての話を聞きに行く予定でした。しかし、突然の変更でガンマー線を観測するCTAの建設計画に携わっていらっしゃる中嶋特任助教授に話を聞くことになりました。私たちは東京大学の柏キャンパスⅡの宇宙線研究所に伺いました。私は小学生の頃に世界的に有名なホーキング博士が書いた本を読んで以来、宇宙に興味を持っていたので、この機会を楽しみにしていました。中嶋氏は専門的な質問も、少し漠然として曖昧な質問も、丁寧に私たちに分かりやすく教えてくださいました。CTAは宇宙から降って来るガンマー線を巨大なパラボラアンテナに敷き詰めた鏡で集め、カメラで撮影するものですが、私たちは特別にその鏡を保管している部屋に案内されました。鏡は六角形で、見た目は市販されているものよりきれいでした。話によるとこの鏡は精度が非常に高く、歪みがほとんどないそうです。このような稀な経験をできて本当に良かったと思います。将来はこの東京大学宇宙線研究所でCTAによる研究に携わりたいと改めて思いました。そのためにも、東大に進学し、大学院に進みたいと思います。